

景観マガジン埼玉スタイル

S.Style no.9

TAKAYASU  
MINE

インタビュー 峯 敬泰さん



### おくのほそ道の風景地 草加松原 国指定名勝

埼玉県 の 東南部に位置する草加市。近世初頭、江戸と奥州各地とをつなぐ街道は、千住から八条・越ヶ谷へと大きく迂回していましたが、幕府は千住・越ヶ谷間を最短で結ぶ新道を整備し、中間に近隣の村々からなる新しい宿駅の設置を命じ、それが草加宿の始まりとなりました。

この街道、日光道中で、寛永7年(1639年)幕府から正式に伝馬宿として公認された草加宿は、参勤交代や日光社参、一般旅人の往来で、大きな賑わいをみせ、元禄2年(1689年)には松尾芭蕉が「おくのほそ道」の旅で草加宿に歩みを残すなど、「街道文化」を創りだしていきました。

現在の草加市は、昭和30年(1955年)に草加町・谷原町(旧谷原村)・新田村による町村合併による新しい草加町を経て、昭和33年(1958年)11月1日に、草加市として市制が施行されました。

その後、大規模な松原団地の整備や地下鉄の相互乗り入れなどを受け、人口が急増し、都市化が急激に進行しました。(出典：草加市HP)

今回は、草加市役所の峯敬泰さんにインタビュー。地元で生まれ育ち、入庁後、草加市と埼玉県で都市計画分野の業務に邁進し、都市計画マスタープラン策定時をはじめ様々な業務で、延べ参加人数700人もの市民会議やワークショップを開催し、ファシリテーターを通算40回以上務め、市民とともにまちづくりを進めるなど、特筆すべき経験を有する都市計画のスペシャリストが、今考えていることとは…。



松尾芭蕉の暖簾が印象的な草加市役所

## 〈生まれも育ちも草加市。草加市役所と埼玉県庁で都市計画の分野の研鑽を積む〉

### ■草加市役所に入庁された動機を教えてください。

■私は生まれも育ちも草加市です。草加市役所以外で働くイメージはなかったので、公務員試験も草加市以外の自治体は考えなかったです。草加が好きだったんでしょうか、動機とか正直あまり考えたことはなかったです（笑）。地元の友人も多くが草加に残っていて、何かこう、草加を出るぞ、なんて気持ちはなかったですね。とにかく生まれ育った草加市で働きたいと思っていました。

### ■草加市役所に入庁以来、どのような仕事をされてきたのか、教えてください。

■2012年に新規採用されて最初の5年間は都市計画課に配属されました。具体的な仕事としては、5年間、メインの仕事として草加市都市計画マスタープランの策定に携わらせていただきました。同時に景観計画に基づく届出審査や屋外広告物の許可申請関係、都市計画審議会、開発審査会などの各種審議会の事務局等の仕事に携わりました。

入庁してからの5年間はとにかく都市マス！って感じで、最初の方針決裁から最後の策定まで、すべて携わらせていただけたことが、本当に貴重な経験になりました。

その後2017年に埼玉県都市整備部都市計画課に2年間派遣されまして、まちづくり埼玉プランといった県域スケールの計画策定や、国県道の都市計画変更手続きなどを経験させて頂くとともに、仕事はさることながら、県庁や他自治体の多くの人との出会いがありました。

その後は市に戻り、都市計画課で3年間、各種審議会の事務局や景観計画の改定とコミュニティプラン策定などに取り組みました。このコミュニティプランは都市計画マスタープランで描いていたまちの



須田家住宅（中屋）土蔵 明治後期築 国登録有形文化財

将来都市像を実現するための、草加市と市民との協働による行動計画です。私が出た 3 年間で、草加市内の 10 地区のうち、2 地区のコミュニティプランをまとめることができました。新規採用されて最初の 5 年で都市計画マスタープランを策定し、県に 2 年間派遣されて市に戻ってきて、都市マスタープランの行動計画部分のコミュニティプランを 2 年間やらせて頂いた、という感じです。

その後の 2 年間は契約課の公共工事担当で、入札、契約事務に携わりました。かつて都市計画に位置付けた道路や公共施設などが実際の工事として発注されたり、計画が形になることを実感し、とてもやりがいがある仕事でした。市議会の議決を経る必要のある契約の変更契約業務などの仕事は、本当に勉強になり、こうした市の大規模工事に携われたことは本当に嬉しかったです。

その後、2024 年度、今年度からは、秘書課（兼）市長付みらい戦略担当に配属されて、秘書業務や政策調査等の業務に携わっております。



藤城家住宅店舗・内蔵・外蔵 明治初期築 国登録有形文化財

### 〈草加市都市計画マスタープラン策定に、最初から最後まで携わる〉

#### ■一番印象に残っている仕事は何ですか？

■やはり草加市都市計画マスタープランの策定です。先程もお話いたしました、5年間で最初から最後まで携わらせて頂いたことが大きいです。最初は、都市計画法に基づく、都市計画の基本的な方針を決めるもの、というスタンスでいたところ、2年目から都市計画マスタープランは総合的な計画にする、という議論が深まり、結果として深くてボリュームのある都市計画マスタープランを策定することになり、5年在籍したことで、結果としてすべてを経験させて頂く事ができました。

当時の草加市では、ちょうど総合振興計画と都市計画マスタープランの改定のタイミングが重なり、さらには他分野の種々の計画の策定もあり、空間的な総合計画がない中で、じゃあ全庁的にいろんな計画を議論して総合振興計画と都市計画マスタープランの両輪で総合的に空間計画を補おうよ、となりました。

■それはすごいですね！

■はい。名称もこだわったんですよ。ご存じの通り、都市計画マスタープランとは都市計画法で定められている「市町村の都市計画に関する基本的な方針」のことなのですが、都市計画だけではなく、福祉、子育てなど全部を盛り込んでいまして、市民の方に実際に手に取って頂いて「まちづくりの全部が乗っている教科書です」と言えるようなコンセプトで作ったんです。

もちろん当時は「それは都市マスではなく、総合振興計画ではないのか？」という意見もありましたが、総合振興計画で空間化できないソフトをこの都市マスで担う、つまり空間化できるものは都市マスで担う、という考えで、総合振興計画と都市マスタープランを一体でつくりました。

■これまでの峯さんのお話から、都市マスの仕事は峯さんにとっていろんな意味で大きい仕事だったのですね…

■はい、本当にそうです。都市マスの仕事は自分の人生を変えたかもしれない、そのぐらい大きく面白い仕事でした。都市マスの策定では、当時、一緒に仕事をさせて頂いた係のメンバーや上司の方々に恵まれたのはもちろんの事、ワークショップを開催して多くの市民の方の意見を傾聴させて頂いたり、たくさんの専門的な事を教えて頂いた大学の先生との出会いもあり、そういう環境の中で自分の気持ちが高まり、社会人大学院への進学や、その後の日本都市計画学会への論文投稿につながるきっかけにもなり、本当にいい仕事に出会えました。



久野家住宅店舗 国登録有形文化財

## 〈市民ワークショップ・ファシリテーター40回以上、延べ参加人数700人以上！〉

■先程、お話のあった市民参加のお話ですが、峯さんはこれまでどのような市民参加のワークショップにどのくらい参加されてきたのですか？

■はい、草加市役所においては、都市計画マスタープランの策定、景観計画の改定、コミュニティプランの策定、また埼玉県庁においては、まちづくり復興イメージトレーニングを行う際の市民ワークショップで通算40回以上のファシリテーターを経験しておりまして、会議に参加して下さった市民の方の延べ参加人数は約700人です。

■えーっ！市民ワークショップで40回以上のファシリテーター経験と、延べ参加人数が700人ですか、それは凄いですね！

■本当に多くの市民の方に参加して頂き、各会議やワークショップで私が担当させて頂いた班やグループで40回以上のファシリテーターを経験させて頂きました。入庁前は、行政の主催する説明会では、役所の一方通行の説明に対して、いろいろな意見が飛び交うようなイメージ、例えばメディアが放送するようなイメージを持っていました。

なので入庁直後は、行政が作った計画を市民の方に説明する会なのかなあと想像してましたが、いざ入庁してみるとワークショップとは、実際に一緒に話し合う場であり、参加して頂いた市民の方と一緒に真剣に前向きな議論が交わされる場所があるんだな、と改めてわかったことが強く印象に残っています。

また、ワークショップのファシリテーターをやらせて頂き、市民の方々は自分のプライベートな時間を削って参加して頂き、地元、草加のまちについて、前向きな想いのある方、熱意をもっている方がこんなにも多くいらっしゃるんだ、と驚き、そんな市民の方の熱意がとても嬉しかったです。

もちろん市役所に対する厳しいご意見もありましたが、とても楽しく建設的な議論ができ、そういう場を経験できたことが私の一番の財産となっています。



### 地区別懇談会

【写真提供：草加市（草加市都市計画マスタープラン巻末資料より）】



## 未来まちづくり市民会議

【写真提供：草加市（草加市都市計画マスタープラン  
巻末資料より）】

どのように改善するか、といった議論になりました。

先程も触れましたが、ワークショップが夜の開催になることが多く、子育て世代の参加が少なかったため、その状況を打破するために、こちらから積極的に子育て世代の方がいる場所に出向き、お話を聴かせて頂きました。

あと、多くのワークショップを経験した上で感じたことは、このような市民協働はとても大切で不可欠なものです。実際に参加する市民の方々は、年月の経過によって、ご自身のライフステージの変化などで、常に関われない状況も増えると思います。そのため今後は、新陳代謝がうまく進むような持続的な組織や取り組みが必要であると思いました。

■ワークショップですが、市民の皆様はどのようにして参加されたんでしょうか？

■ワークショップに参加して頂く市民の方としては、例えば地区別懇談会、これは市内のコミュニティブロック単位（10地区）で開催した会議ですが、こちらは町会の回覧板や広報誌などで呼びかけを行い、その呼びかけに応じて参加して頂きました。

また、未来まちづくり市民会議、これは全市的な視点で市民の方から意見を頂くものですが、20歳以上の市民から無作為に抽出した2,500人のうち、参加の意思を表明して頂いた方と、広報誌とホームページでの公募に応募して頂いた方などに参加していただきました。

またそれに加えて、どうしても子育て世代の方々の参加が少ない傾向がありましたので、その世代の意見を伺うために、青年会議所やPTA連合会、0.1.2歳クラブなどの子育て世代の方々がいる場などに出向き、地区の魅力や課題などに関するアンケートを実施いたしました。

■ワークショップで難しい局面もあったかと思いますが？

■そうですね、確かに行政に対して要望するみたいな雰囲気になりかけたこともありました。

ただ、財源には限りがあることや、地域のデータを可能な限り数値化して客観的に丁寧に説明をしたことで、それぞれの地区の強みを生かし、弱点を

■ワークショップで印象に残る出来事とかあれば教えてください。

■そうですね、なかなか人が集まりづらい時、ある町会長さんから「じゃあ、俺のブロック、俺が人集めるよ！」って言って頂いて、多くの方にご参加いただいた会は、とても嬉しかったです。

やはりこちらから伺い、お互いの気持ちを伝えることができる双方向の関係ができていることが一番大切なのかもしれません。

### 〈市民連携の形に正解はない〉

■そのような経験を踏まえて、峯さんは政策や計画決定の際に、市民と行政がどのような形で協働するのが良いと思われますか？

■私の個人的な意見ですが、協働の形に正解はないと思います。確かに政策として形になるものを協働で考える訳なのですが、その協働の形自体はあらかじめ理論重視で検討するのではなくて、各プロジェクトの性質や関わる人に応じて、そのプロジェクトに最適な協働の方法を参加者全員が粘り強く、丁寧に議論して探り当て、少しずつでも合意していくプロセスを経ていった結果が最良となり、結果としてそれが最良な協働の形であった、ということなのかなと思います。



草加市立歴史民俗資料館（旧草加小学西校舎）1926年（大正15年築）  
国登録有形文化財

### 〈草加市都市マスタープランの特徴〉

■そのような市民協働で作られた草加市都市マスタープラン、特徴や内容を教えてくださいませんか？

■はい、もちろん詳しくは草加市のホームページで閲覧できますが、草加市都市計画マスタープランは、ハード政策だけでなく、福祉や子育て、住宅政策、にぎわいづくりなどのソフト政策も幅広く目配りをした総合的なまちづくりの計画です。計画では、優先的に取り組むべき政策を「まちづくり戦略」としてま



### 建て替えが進む松原団地、獨協大学前駅西口から続く緑のプロムナードにて

とめ、部局横断で取り組まなければならないことを時系列で位置づけています。

また、策定にあたっては先述したようにワークショップ等の市民協働により、市民意見を多く取り入れ、頂いたご意見については、第2章地区別方針、の各地区別にて文章や図面にて記載しております。また、冊子として広く市民の方に「まちづくりの教科書」として手に取って頂きたい、と冊子のデザインにも心を砕きました。是非、一度読んで頂ければ幸いです。

#### 〈草加市の魅力に改めて気がつく〉

■最後に峯さんの考える、草加市について教えてください。

■松原団地に代表されるベッドタウンのようなイメージはありましたが、草加市役所に入庁して社会人として仕事をして、また、埼玉県庁に派遣されて外から客観的に草加市を見るうちに、草加市は単なるベッドタウンではなく、伝統的な建物が残っていたり、草加松原のような景観、街道文化、またまちなかの建物のリノベーションが進んでいたりするなど、多くの魅力に溢れていることに改めて気がつきました。

自分が生まれ育った場所であり、私は草加市が好きです。将来のイメージとしては、草加に暮らす子供たち、自分にも2人子供がいるのですが、その子供たちが地元で愛着や誇りをもてるまちになるように、これからも努力していきたいと思っています。

■今日は、素晴らしいお話、ありがとうございました。

■ありがとうございました。

\*\*\*\*\*聞き手、編集：埼玉県指定景観整備機構 都市づくり NPO さいたま 細田 隆  
監修：埼玉県都市整備部都市計画課

峯 敬泰（みね たかやす）

平成元年（1989年）、埼玉県草加市生まれ。

東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻 修士課程 修了。

2012年、草加市役所入庁後、計10年間、都市計画課に在籍（うち2年間は埼玉県都市計画課へ派遣）。

草加市都市計画マスタープラン改定、まちづくり埼玉プラン策定など、市域スケールから県域スケールのまちづくり総合計画の策定に市と県で携わり、草加市景観計画の改定、景観条例に基づく届出審査など、景観行政にも携わった。

現在、秘書課主任（兼）市長付みらい戦略担当主任。



・草加市都市計画マスタープラン

[「まちづくりの基本となる計画 草加市都市計画マスタープラン2017-2035」ができました - 草加市役所](#)

・YouTube 動画『サイタマ景観ちゃんねる』埼玉県公式

[埼玉県 VR 景観さんぽ（草加宿編）](#)

景観マガジン埼玉スタイル S.Style no.9

監修・発行：埼玉県都市整備部都市計画課 2025年3月

〒330-9301 さいたま市浦和区高砂3-15-1